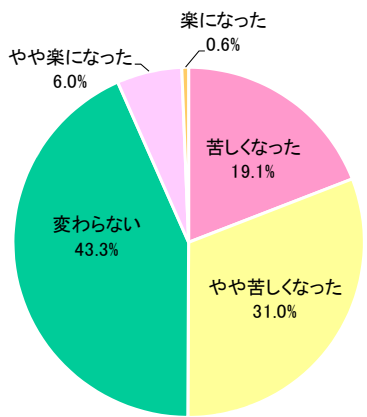


01 Woman's Trend

夫の夏のボーナス、7割強の家庭は支給されたけど、昨年より増えたのは、そのうち3割弱
4割強の家庭が「特に目的のない預貯金」に使う

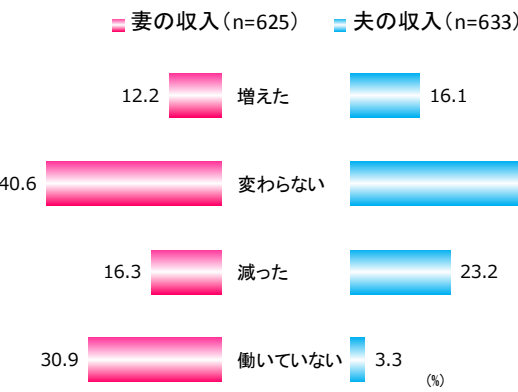
Q. 昨年と比べて今年、家計に変化は？



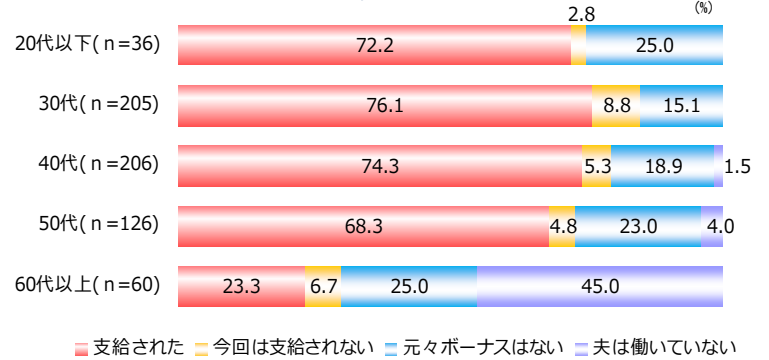
2015. 09. 03~09. 06

既婚女性を対象にWEB調査 (n=633)

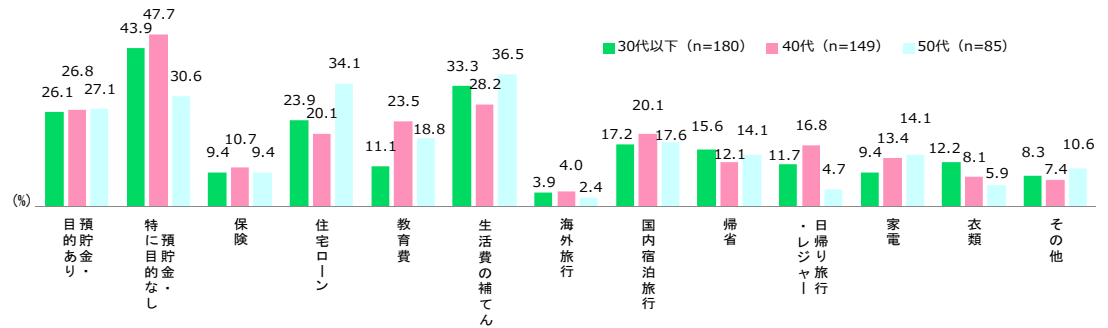
Q. 毎月の収入に変化はあった？



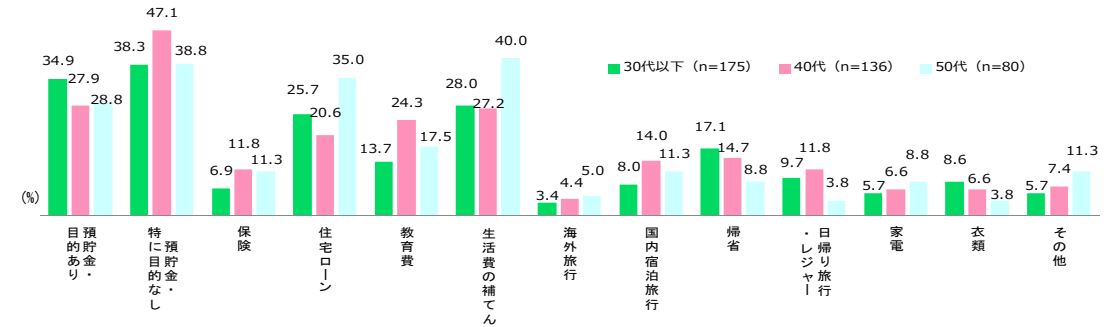
Q. 夫の夏のボーナスは支給された？



Q. 夫の夏のボーナスの使い道



Q. 夫の冬のボーナスの使い道予定



9月に公表された「景気ウォッチャー調査(内閣府)」では、緩やかな回復基調が続いているとするものの、現状、先行とも水準を下回る下落傾向。この煮え切らない状況は、庶民の感覚にも反映されている。

全国女性812名の回答を得た賞与についてのアンケートで、家計の苦しさが昨年より増していると感じている人が半数超。楽になったという人はわずかに6%。上のグラフは、既婚者に絞ったものだが、割合は変わらない。

ここでは全て既婚者に絞って、夫の収入と妻の収入の増減も確認した。変化なしの人が半数を占めるが、増えた人よりは減った人のほうがどちらも多い。年代別に見ると40代あたりから頭打ち感が出てくる。

賞与のほうは、この夏、夫に支給があった人が7割程度。その中には増えたとする人もそれなりに居るので、賞与で明暗が分かれるようだ。妻のほうで賞与のある人は2割弱。

賞与の使い道は、半数近くがとてあえずの預貯金に回し、あと生活費の補てんにする人やレジャーに使う人といった感じ。冬の予定も同様で、帰省費用が増える程度か。年代別には、40代が特に目的のない預貯金をして、50代が住宅ローンや生活費の補てんに充てる人が多くなる。

妻の賞与の使い道も似たようなものだが、衣類やバッグなどファッション雑貨、趣味やエステに使う人が増えるのが面白い。

この傾向は未婚者ではより顕著で、預貯金(目的なし、目的あり)、生活費補てんに次いで、国内宿泊旅行(24.1%)、衣類(19%)、趣味(17.7%)、海外旅行(15.2%)と続く。冬の賞与の使い道予定も同様で、やはり自己投資型の消費をするのは独身女性だ。

賞与で「特に目的のない預貯金」をせざるを得ない不安感を払拭しない限り、消費の拡大は望めそうもない。(所長/植田奈保子)

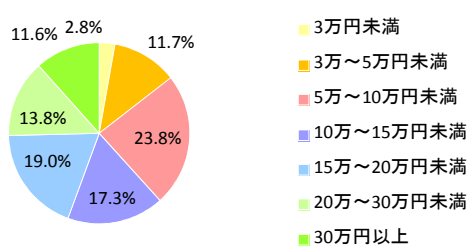
02 Woman's Data

【OLのキモチ】

最近行った海外旅行の費用は15.9万円

OLが最近行った海外旅行の料金の一人当たりの平均は15.9万円。2013年の調査と比較するとプラス1.4万円と、少し旅行にお金をかける傾向になっている。行程は平均5.9日間で、行き先のベスト3はアジア(4割弱)、ヨーロッパ(2割強)、アメリカ・カナダ(1割強)。年末年始やGWを利用するよりも、土日有給休暇をプラスして行った人が4割強と最も多かった。

【一番最近の海外旅行の一人当たりの料金】



2015. 07. 21~07. 27 シティリビング調べ 首都圏のOLを対象にWEBアンケート (n=741)

【子育てママのキモチ】

園児の好きなキャラ1位は妖怪ウォッチ

幼稚園ママと保育園ママに、園児の好きなキャラクターを聞いたところ、「妖怪ウォッチ」が52.0%でついに1位になった。昨年は関連グッズが売り切れるなど、「妖怪ブーム」が席卷した。男女共に、ポイントが高いのが特徴。2014年まで不動の1位だった「アンパンマン」は2位で47.6%、3位は「アナと雪の女王」で45.1%。

【園児の好きなキャラクターは？】 ※上位抜粋

2015. 06. 5~06. 25 あんふあん調べ 幼稚園&保育園ママを対象に誌面、WEBアンケート (n=762)

順位	キャラクター	n	%
1位	妖怪ウォッチ	396	52.0
2位	アンパンマン	363	47.6
3位	アナと雪の女王	344	45.1
4位	ミッキー・ミニ	312	40.9
5位	ドラえもん	290	38.1
6位	しまじろう	262	34.4
7位	プリキュア	251	32.9
8位	おさるのジョージ	220	28.9
9位	ディズニープリンセス	211	27.7
10位	はなかつぱ	202	26.5
10位	クレヨンしんちゃん	202	26.5

03 Group Eyes

リビング新聞読者の声から生まれた「主婦休みの日」をご存知ですか？

毎年1月25日、5月25日、9月25日は「主婦休みの日」。この記念日は、365日休みのない家事を担当している主婦(主夫)が気兼ねなく家事を休むことができる日がほしい、という読者の声から生まれたもので、サンケイリビング新聞社が2009年に日本記念日協会に申請し登録された。それぞれの日にちは、「年末年始」「ゴールデンウィーク」「夏休み」の直後の給料日に！という主婦たちの意見がもとになっている。

リビング新聞ではこの「主婦休みの日」に関して、毎日がんばる主婦に自分磨きやリフレッシュのために有意義な時間を過ごしてもらおうと、さまざまなイベントやプロジェクトを展開。

それに応えてホテルのレストランやサンドイッチチェーン店が「主婦休み」特別メニューを提供するなど、外食産業を中心に「主婦休みの日」は確実に定着しつつあるようだ。

家族の元気は日本の元気、毎日家族を支える日本の主婦をリビング新聞は応援していく。

(サンケイリビング新聞社CC室)



イベントや企業とのコラボ展開事例

- ▶大手老舗ホテルのレストランが「主婦休みの日」応援特別メニューを提供
- ▶有名焼肉店チェーン店で1000円オフ&キッズドリンク無料の限定クーポン発行
- ▶高級スパで「主婦休み」特別クーポン発行「入館料半額」・「館内着レンタル無料」に
- ▶有名リゾートホテルでのエステが「主婦休み」特典で10%オフ